

今後に向けて

かつて水運が人や物の主な移動手段であった時代には、日本海側の島根県や新潟県などは日本の中でも有数の都市でした。明治政府が発足後、東京を中心とする太平洋ベルト地帯に、様々なインフラ・産業が集中し、陸運が人流・物流の中心に変化した歴史があり、東京一極集中の是正がなかなか進まない原因は、権限が集中していることに加え、インフラも集中しているからだと考えます。

例えば、権限について言えば、文化庁が京都に移って、便利になるのかということ、東京であれば圏域からは飛行機により1時間程度で行くことができるため逆に不便になることとなります。圏域の地方創生を成し遂げるためには、東京に権限が集中していることよりも、インフラが東京周辺に余りにも集中していることが課題だと考えます。企業からすると、世界相手に取引、貿易をするとすると、東京に拠点を置くことが圧倒的に有利であり、また日本国内に様々な営業所や支店を張り巡らそうとすると、東京に本社を置いた方が便利になるといった、国の形を成しています。

一方で、同じ先進国のアメリカやドイツは、完全に連邦国家で、首都は首都としてありますが、そこに集中することなく、どこの地域であっても、一定の公平な状況・条件の中で色々なビジネスが展開できる、国づくりをしています。すなわち、国内において地方創生を成し遂げようとする、陸、海、空のインフラ整備が必要不可欠です。

この圏域を見渡すと本当にインフラが脆弱です。例えば、境港は非常に立派な港ですが、陸路へのアクセスが弱いことから、物流業者が十分に進出しきれていないといった大きな課題があり、圏域全体を見渡すと、このような事案はたくさんあるのではないかと思います。圏域8の字ルート整備は、道路整備を契機とした次世代のまちづくり構想を描いていくことです。特に高規格道路は複数の自治体を連なり整備されるものであり、その効果をまちづくりに最大限にいかしていくためには、地域を越えた連携が不可欠です。本圏域は長い年月をかけて、行政、経済界、高等教育機関、地域住民等、様々な主体が連携を深め、そのつながりを強固なものとしており、まさに高規格道路ネットワークをいかす土台ができているものと考えます。このような圏域であるからこそ、本研究会は少なくともこの圏域の中を、自由に行き来できるようなまちづくりを行い、激しい地域間競争の時代を勝ち抜いていき、我々の子供や孫の世代においても豊かに暮らせる社会を創りたいという思いから、圏域8の字ルートをいかしたしまちづくりの検討を進めて参りました。圏域が一体となった持続可能なまちづくりを推進するためには、地域の住民や企業等の関係者の意見を丁寧に聴き、地域の実情を十分把握しながら、関係機関が連携し検討をすることが重要であり、圏域8の字ルートをいかしたまちづくりについても引き続き検討をおこないながら、圏域の皆様と共に進めていきたいと考えます。さらに本研究会で取りまとめた結果について、圏域市長会の取組のみならず、今後の圏域構成市のまちづくりにも活用され、圏域の目標とすべき社会像「縮まる時間 深まる交流 広がる未来」に向けた様々なチャレンジを繰り返し、「あたかも一つのまち 住みたくなる中海・宍道湖・大山圏域」の実現をめざすとともに、圏域が周辺地域ともつながり連携を深めながら、共に発展することを期待します。

